

【学年・単元名】

7年生 運動会で異学年交流～サイコロ宅配便～

【経緯】

7年生の子供たちはこれまで、小学校の最上級生として、学校の行事を牽引し、経験を積み重ねてきた。4月から中学校へ入学し、上級生を支える立場として中学校だけでなく、学校園全体に関わることに意欲的である。そこで、5年生との異学年・異校種交流を通して、小学校と中学校をつなぐ架け橋としての役割を与え、それぞれの学年がそれぞれの校種で果たすべき役割を自覚させ、活動できるようにしていきたいと考えた。

【取組の実際】

① 単元序盤

5年生との交流を行うにあたって、初めに、道徳の教科書教材である「私の話を聞いてね」という文章を扱い、学ぶ機会をもった。子供の運動会に向けた思いとして「運動が好きな人も苦手な人もいるので、勝ち負けにこだわりすぎず、楽しい運動会を創っていくことができればよいと思います。」といったものがあつた。



② 単元中盤

学年全体で考え、「お互いの美点を理解し、認め合い、全力で楽しむ」という目標を設定することができた。目標を達成するために必要な条件を踏まえて、競技を検討した結果、「運動能力にかかわらず結果が変動する」「5年生と協力しながら行える」といった要素を満たす「サイコロ宅配便」という競技が考案された。この競技は走者がサイコロを振り、運ぶ段ボールの数を決め、段ボールをバトンとして次の走者の場所まで運ぶという競技である。サイコロを振ることで、単純な運動能力ではなく運の要素を取り入れ、また、段ボールを複数運ぶためには、他者との協力が不可欠になるということでの支持を得たものであつた。



その後、安全面や競技の進行にかかわるルールの修正を積み重ね、運動会で競技を行うことができた。

【取り組み後の子供たちの姿】

- ・様々な価値観をもつ他者の存在を意識できるようになった。
- ・運動会を通して、他者の考えや思いを理解するために傾聴する姿が見られるようになった。
- ・全体を引っ張る「リーダー」だけでなく「リーダー」を支える「サポーター」としての動きが見られるようになった。